

エコアクション21

2014年 環境レポート

(対象期間:2014年1月~2014年12月)



IFFT インテリアライフスタイルリビング展 2014 (東京ビッグサイト)

作成日 2015年2月18日

Atsukawa 厚川産業株式会社

I. 環境方針

■ 環境理念

厚川産業は、環境保全は社会に対する企業の責務と認識し、環境負荷の継続的低減に努めることで、環境に配慮した社会づくりに貢献する。

■ 環境方針

厚川産業は、環境理念に基づき環境活動を着実にする為に、以下に掲げる環境活動を推進する。

1. 環境マネジメントへの取組みを積極的に実行し、事業活動に伴い生ずる環境負荷の低減に努める。
2. 環境保全活動を推進し、環境汚染の予防に努めると共に、環境マネジメント及び環境目標を定期的に見直し、継続的改善を図る。
3. 環境法規、規制、条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守する。
4. 環境パフォーマンスを継続的に改善する為、以下のことについて重点的に取り組む。
 - (1) 環境に配慮した製品の開発及び製造プロセスの改善に努める。
 - (2) 地球温暖化防止対策として、CO2の削減に努める。
 - (3) 資源の有効利用及び廃棄物の適正処理・削減に努める。
 - (4) グリーン購入・グリーン調達に努める。
 - (5) 水質汚濁の予防に努める。
 - (6) 化学物質の適正管理及び使用量の抑制に努める。
5. リスクマネジメントによる安全管理に努める。
6. 環境方針・環境レポートを公示すると共に、社内や地域に対しての環境コミュニケーションに努める。
7. この環境方針は、関連会社を含む全社員に周知し、理解と協力を要請する。

平成17年3月14日 制定日

平成23年4月1日 改定日

厚川産業株式会社

代表取締役 厚川秀樹

II. 事業概要

1. 事業所名 : 厚川産業株式会社
- 代表者名 : 代表取締役 厚川秀樹
2. 所在地 : 埼玉県吉川市旭10-1 (東埼玉テクノポリス内)
3. 対象範囲 : 本社工場
4. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
- 責任者 : 専務取締役 厚川賢二 TEL 048-993-2002
 担当者 : EA21事務局 藤井沙矢加 FAX 048-991-0050
 e-mail atsukawa@wonder.ocn.ne.jp
5. 事業内容 木製品加工 主要製品 : 住宅OEM部材(収納家具・床材)
 オリジナル桐製 家具・雑貨
6. 事業の規模 製品出荷額 287百万円
 主要製品生産量 2533トン
 従業員数 19名
 工場床面積 2,339㎡
7. 事業年度 1月～12月

III. 活動スケジュール

	スケジュール													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
二酸化炭素廃質量の削減														
使用電力削減活動	ウォームビス						クールビス			ウォームビス				
バッテリーフォークの使用削減										バッテリーフォークの使用削減				
照明以外の省エネ活動	設備メンテ													
作業内容見直しによるエネルギーロス削減	生産ロス削減活動													
燃料使用量の削減														
エコドライブ、アイドリングストップの徹底	エコドライブ、アイドリングストップの徹底													
定期便の有効活用	定期便の有効活用													
納品の平準化/積載効率向上							納品の平準化/積載効率向上							
廃棄物の削減														
分別の徹底(表示類見直し)	分別の徹底(表示類見直し)													
4M変更時の不具合撲滅	4M変更時の不具合撲滅													
材料共通化による歩留り向上	材料共通化による歩留り向上													
クレームの発生撲滅(作業手順見直)	クレームの発生撲滅(作業手順見直)													
梱包レス活動							梱包レス活動							
水道水の削減														
汚濁防止活動	汚濁防止活動													
定期点検の実施(パトロール)							パトロール						パトロール	
化学物質の削減														
使用量削減/新製品時の切り替え	使用量削減/新製品時の切り替え													
グリーン購入														
購入時のグリーン購入推進	購入時のグリーン購入推進													
環境配慮製品の開発・販売促進														
環境配慮製品の開発を推進	環境配慮製品の開発を推進													
環境配慮製品の販売促進							環境配慮製品の販売促進							

IV. 主要な活動内容

取組み計画	主な取組み	評価	次年度の取組み
電力の削減	・ 移動式リフター導入によりフォークリフト使用を削減推進	○	
バッテリーフォークの使用削減	・ 次工程へのリフト移動 → ハンドリフト移動 → 専用ラック作成	○	材料の近接化
作業内容の見直しによるエネルギーロス削減(主に熱源)	・ 熱源使用作業の見直しにより作業の集約	○	他の作業の見直し
燃料使用量の削減	・ エコドライブ、アイドリングストップの徹底 → 出入り業者の方にも協力依頼しています	○	継続実施
エコドライブ、アイドリングストップ	・ 積載効率向上によるトラック便数削減 → 専用ラックによる積載効率アップ	○	継続実施
定期便の有効活用	→ 生産情報の先取りによる計画配送	△	納入先との継続取組
納品の平準化/積載効率向上	→ 納入量(ロット)の最適化		
廃棄物の削減	・ 仕入先との共同改善 → 仕入先を巻き込んだ梱包材使用量削減(邸別廃止)	○	継続実施/水平展開
梱包材削減・無梱包化推進	・ 化粧材の廃棄物が増えている → ハザイ活用による廃棄物削減	×	継続実施
化粧材の歩留り向上	→ 材料共通化による歩留り改善(板厚共通化)	○	水平展開
納入時の養生材削減	・ 仕入先との共同改善 → 養生レス活動 → 養生材のリサイクル活動	△	仕入先との継続取組
歩留り改善	・ 顧客への提案活動 → 材料共通化による歩留り改善(合板→パーチ)	○	納入先との継続取組
水道水の削減	・ 使用量削減パトロール	○	継続実施
定期点検の実施	使用量の削減 → 増員以上に使用量の増加	×	原因調査
化学物質の削減	・ 化学物質の使用量削減 → 製品のふき取り溶剤の変更 → 塗装方法の変更(自然塗料の積極使用)	○	作業内容見直・代替品による削減の継続推進
使用量削減			
グリーン購入	・ グリーン購入対象品目の優先購入 → 車両のエコカーへ乗り換え → 塗料の変更	○	継続実施
グリーン購入の推進			
環境配慮製品の開発・販売促進	・ 製品開発時の環境配慮実施 ・ お客様への環境配慮製品の紹介 → 仕様変更提案	○	継続実施
環境配慮製品の開発を推進 環境配慮製品の販売促進			

評価基準:達成率100% ○、90%以上△、90%未満×

<活動事例>



○ 専用移動ラック作成

- 部品の指定席化により、ハザイが活用しやすくなった。
- 材料の共通化により、歩留りが向上した。
- 立体的に部品が入るので次工程への回数が減った。
- フォークリフトからハンドリフト移動へ変更

V. 環境目標とその実績

1. 環境目標

削減項目	単位	基準年度	削減目標						
		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
廃棄物排出量 (排出量/生産量)	トン	0.0292	1%削減 0.0289	2%削減 0.0286	3%削減 0.0283	4%削減 0.0280	5%削減 0.0277	6%削減 0.0274	7%削減 0.0272
二酸化炭素排出量 (排出量/生産量)	kg-CO2	28.46	1%削減 28.175	2%削減 27.891	3%削減 27.606	4%削減 27.322	5%削減 27.037	6%削減 26.752	7%削減 26.468
排水量 (排水量/従業員数)	m ³	11.94	1%削減 11.82	2%削減 11.70	3%削減 11.58	4%削減 11.46	5%削減 11.34	6%削減 11.22	7%削減 11.10

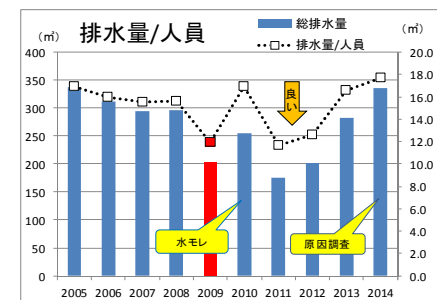
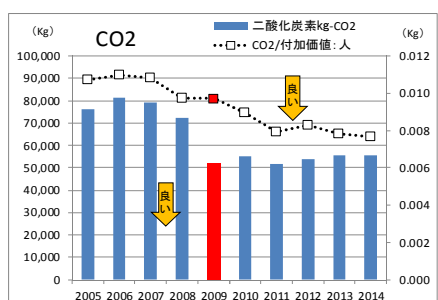
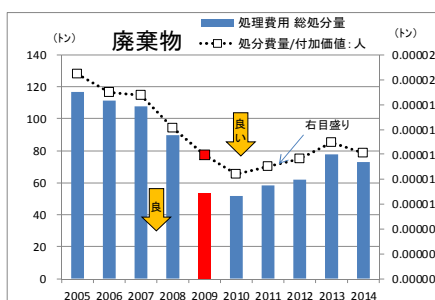
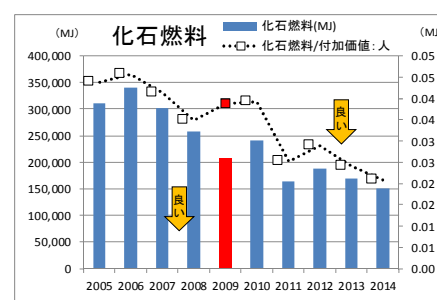
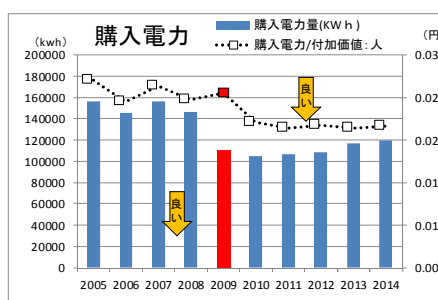
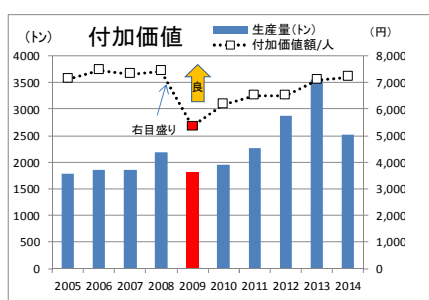
※環境目標は基準年度に対して年1%削減

2. 取組実績

項目	単位	基準年度	削減実績					目標値	達成率	評価
		2009年	2011年	2012年	2013年	2014年				
廃棄物排出量	廃棄物等総排出量	トン	53.4	58.1	61.9	78.3	69.9	50.7	/	/
	(排出量/生産量)	トン	0.029	0.026	0.022	0.022	0.028	0.028	101%	○
	(付加価値/排出量)	円	1,708	1,682	1,669	1,538	1,959	1,794	109%	○
二酸化炭素排出量	購入電力	MJ	996,506	1,052,193	1,066,594	1,145,844	1,175,206	946,681	/	/
	(購入電力/生産量)	MJ	545	466	372	322	464	517	112%	○
	(付加価値/購入電力)	円	92	93	97	105	117	96	121%	○
	化石燃料	MJ	208,413	163,672	187,382	170,068	150,320	197,992	/	/
	(化石燃料/生産量)	MJ	119.7	72.5	65.4	47.8	59.4	113.7	192%	○
	(付加価値/化石燃料)	円	437.5	596.8	551.1	708.6	911.1	459.4	198%	○
	二酸化炭素排出量	kg-CO2	52.07	51.49	53.63	55.50	65.59	49.47	/	/
(二酸化炭素/生産量)	kg-CO2	28.46	22.82	18.71	15.59	15.9	27.04	170%	○	
(付加価値/二酸化炭素)	円	1,751	1,897	1,925	2,171	2,088	1,839	114%	○	
排水量	下水量	m ³	203	175	201	282	336	193	/	/
	(排水量/従業員数)	m ³	11.9	11.7	12.6	16.6	17.7	11.3	64%	×

※購入電力排出係数は、0.464kg-CO2/kWh採用

評価基準：100%○,90%△,80%×



VI. 環境関連法規等への違反・訴訟の有無

環境関連法規は環境関連団体及び関係機関のホームページ等で確認し、結果は下表の通りでした。

主な適用法規	活動及び対策	違反・訴訟の有無
<水質関係> ○小規模事業所排水指導指針 (昭和60年12月25日埼玉県)	油水分離層、沈殿槽などの簡易な排水 処理施設 → 設置済み → 保守点検結果:12/26異常なし	無
<騒音・振動関係> ○騒音規制法 ○振動規制法	集塵機消音対策 → 2011年7月消音対策終了 → 2014年12月計測:基準値内 コンプレッサー等振動の少ない設備に変更済 →基準値内	無
<廃棄物関係> ○廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物保管所の設置 表示類の見直し マニフェストにより適正に処理 5/27 産業廃棄物管理票交付等状況報告書提出	無
<消防法(危険物)> ○消防法 ・防火管理者 ・危険物保安監督者、危険物取扱者	消防所長に届出済み 乙種四類取扱資格者あり 危険物倉庫の維持管理 12/13 消火設備の点検および見直し	無
<労働安全衛生法> ○労働安全衛生法 ・安全衛生推進者等を選任すべき事業所 ・作業主任者の選任	安全衛生推進者の選任→資格者(2名) 木工加工用機械作業主任者の選任(3名) 9/4 新規1名 資格所得	無

- ・ 環境関連法規、条例、その他の規制に対して違反はありませんでした。また、訴訟等も同様ではありませんでした。

VII. 代表者による総合評価

2014年度は第二期(2010～2014年)環境活動計画の最終年度であり、各目標の達成状況が問われることになる。排水量が目標を下回ったものの粗方の数値は目標をクリアすることが出来ている。また、期間途中で新たに環境目標に加えた化学物質の使用量抑制に於いても、環境負荷が少ない塗料を推奨し、化学物質による大気汚染を抑制するなどの活動効果が顕著である。このような社内外を巻き込んだ環境活動が本来のあるべき活動の姿であり今後も継続したいものである。

これからの第三期(2015～2019年)環境計画では、当社の社内体制や生産品種の変革期を迎えることとなります。それに沿い、環境方針・環境目標などを事業形態に合ったものへと改めることとなりますので、新目標に向けてチャレンジしてください。

VIII. 今後の取組

来年度からの第三期環境計画に於いて、環境方針・環境目標の見直しを行いPDCAを確実にまわす取組をする。